

今年度の特記事項

- ・ 財務状況の健全化にむけて収支バランスを整える目標の中で、収入基盤の特養利用実績が93.8%(前年比+6.4%で+38,506千円)と円滑な入所調整により前年を大きく上回れたことが健全化に近づけた。しかし、在宅サービス(デイ・ショート)の利用低迷もあり目標を達成できずに(資金収支差額:△3,200千円)、次年度の継続課題となった。
- ・ 施設運営の一員である職員の変動状況は、年度後半期より常勤職員3名休職し、常勤の退職者はないものの夜勤パート職を適宜に雇用できない状況で夜間業務の負担が増しているため見直しが喫緊課題となった。
- ・ 2月末からの新型コロナウイルス感染対策では、「持たさない」の徹底にむけ、職員の健康管理、三密の回避、ご家族来訪者面会制限、在宅サービスの利用自粛依頼等を発信している。

1 ご利用者がその人らしさを保ち安心して過ごせる生活支援

利用者の暮らしを支援していく中で置き去りになりがちな「過ごし方」に着目し、余暇研究会を発足した。ご利用者の個別的な趣向を伺い、塗り絵や書道などの活動をプランの中に組み込みながら提供することができた。また、以前より要望のあった外出活動を年3回に増やし多くの方に楽しんでもらうことができた。

在宅に置いては、通所での入浴利用のニーズが高く、新規受け入れには全体で調整する必要があり、関連部署と連携し可能な限り案内することに努めた。また2月末からは新型コロナウイルスに伴う注意喚起の中でも入浴プランがある方はお休みすることがない状況から、あらためてニーズの高さを実感するとともに、施設全体での感染症予防の重要性を強く意識した。

2 組織力を持った職員配置と育成の強化

介護記録システムが「ケアカルテ」に移行したことにより、関係する部署間での情報共有が円滑となり、記録の充実にもつなげることができた。導入初年度ということもあり、まだ習熟度に個人差があるが、業務のあり方等を見直し、ペーパーレスへの取り組みも始めた。

直接介護の部分でも以前より取り組んでいた「福祉用具活用」を軸に、浴室での福祉用具活用を進め「かかえ上げゼロ」を達成することができた。福祉用具の活用によりリスクの軽減、働きやすい職場づくりにつなげることができた。

職員配置は、業務整理を進めたが勤務環境の改善までは届かず、超過勤務軽減にはいたらなかった。配置の見直し、業務の見直しを重点課題として次年度継続する。

3 運営の安定と正しい経営の確立

特養:93.8% 短期:74.6% 通所:73.0% 認知症対応型通所介護:31.9%

ホームは円滑な入所に向けて取り組み成果を上げることができたが、年度末に永眠者が増加し、伸び悩んでしまった。ショートステイは、入所・退所時間の変更も影響していることもあるが、今後は使いやすさを工夫していく。同様にデイサービス・認知症対応型通所介護も安定している状況ではないため、在宅ニーズに対しての戦略的なPR活動や本人・家族ニーズに沿った対応や仕組みづくりが次年度に向けての課題となる。

4 地域における拠点施設としての役割を果たす

独居世帯、高齢のみ世帯が増加する中で、生活の軸となる「食」に関するニーズが高く、夕食の配達サービス(湧夕ごはん)やデイサービスでの持ち帰りを利用される方の人数が多くなっている(湧夕:約107%増 持ち帰り:約153%増)。地域の中で泉苑が果たせる役割を模索しつつ、様々な角度から開かれた施設として今後も取り組んでいきたい。(包括:年間相談件数7643件/前年比525件減だが相談実人数は若干37人増)

5 計画的な施設整備の確立

築年数が高い中で、設備の随所に老朽化の影響がはじめており、状況を確認しつつ当年度または次年度についての修繕予定を検討した。また入浴設備については、次年度に検討会議を設け、業務効率も含めた修繕計画を推進していく予定としている。

防災についても府中市の説明会内容を踏まえて取り組むと共に、台風19号での対応または新型コロナの予防策など、それぞれの事業継続計画(BCP)の必要性が高まった。今後は細部をイメージしながら再構築していきたい。